

## 復活節 第5主日 2010年助祭叙階式の幸田司教様のお説教から

新型コロナウイルスの影響で、5月24日まで休園中で荷物の整理をしています。すると、2010年3月22日の助祭叙階式で幸田司教様がくださったお説教が見つかりました。今の時期に読み返して、私にとっても信徒の皆さんにとっても、とても大切なメッセージをくださっています。そこで今日の福音の説教の代わりに紹介させていただきます。特に第一朗読の「食事の世話(愛の奉仕)」と「祈りと御言葉の奉仕」と重ねて理解してくださったらと思います。

### ミサのはじめに

今日、イエズス会の三人の神学生の助祭叙階式が行われます。この三人の上に、聖霊・神の力が豊かに注がれますように。そして、私たちの教会がキリストから与えられた使命を力強く生きることができるよう、心を合わせて祈りましょう。

### 説教

イエズス会の司祭志願者のための養成期間は非常に長いですね。この三人も2000年3月20日に一緒に入会してから10年間にわたって知的・霊的・司牧的な養成を受けてきました。そしていよいよ今日、助祭叙階の日を迎えることになりました。多分それまでの養成期間が長かったためでしょう。イエズス会の助祭は半年ほどで司祭叙階ということになります。この助祭の期間は短いのですが、でも今日の助祭叙階には大切な意味があると思います。2つの点をお話しします。

1つ目は、助祭になるということは、教会の公の奉仕者になるという点です。助祭になると教会法上「聖職者」ということになります。いい言葉ではありませんが、教会の中での特別な役割を担うことになります。助祭は特に「御言葉の奉仕(ミサでの説教)」と「愛の奉仕」のために立てられます。その奉仕を単に個人の名において行うのではなく、教会の名において行うことになります。今日からあなた方の言葉は、単にその人の言葉であるというより、教会の語っている言葉になります。また、今日からあなた方が病人や貧しい人に関わる時、誰か一人の人間として関わるのではなく、教会の奉仕として関わるのです。

教会の使命は、復活したイエスの証人になることですが、もっと言うならば、あなた方の言葉は、復活して今も生きておられるイエスの言葉になります。あなた方の行いは、今も働いておられるイエスの行いになるのです。

第一朗読のパウロの言葉は印象的です。「生きているのは、もはや私ではありません。キリストが私の内に生きていられるのです」(ガラテヤ2:20)

もちろん私たちは死ぬまで、嫌というほど生身の人間です。個人的な弱さや傾向から解放される訳ではありません。それでも、そんな私たち奉仕者を用いてキリストが教会の中で働かれる、これが叙階の秘跡の神秘です(洗礼についても同様だと思います)。そのことをしっかり心に刻んで日々の奉仕を生きて行って下さい。

2点目。助祭はギリシア語の「ディアコノス」、日本語で「仕える者」「奉仕者」であることです。この面で先ほど読まれた福音のイエスの言葉をいつも心に刻み付けてください。マタイ11章28~30の素晴らしい言葉です。

「すべて重荷を負って苦勞している者は、私のもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう。私は柔和で心のへりくだった者だから、私の軛を負い、私に学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に安らぎが得られる。私の軛は負いやすく、私の荷は軽いからである。」

もちろん、私たちが疲れた時、重荷に喘ぐ時、イエスが助けてくださることを忘れないようにして下さい。でもそれだけでなく、私たちは人々に向かって、特に貧しい人や弱っている人に「安心しなさい。イエスのところに来なさい。ここに救いがあります。」と呼びかける役目があります。助祭は特にそうでしょう。「私は柔和で謙遜な者だから」とイエスは言われました。元の言葉は「貧しく、身分が低い」と訳せる言葉です。「貧しく、身分が低い」、だから安心して私のところに来なさい。私があなた方と共にその重荷を担おう。これがイエスの呼びかけでした。上から手を差し伸べて救ってやる、というのではないんです。十字架の苦しみを通して、全ての人の苦しみを共に担いながらも、もっと大きな復活の命の喜びへと、イエスは招かれました。その姿に倣いたいのです。本当に人々の重荷と一緒に担おうとする姿。これは「仕える者」となられたキリストの弟子である私たちにとって一生変わることはないテーマです。いつも助祭叙階式の時に言うのですが、助祭は司祭になる時に助祭であるのをやめるのではありません。助祭は司祭になっても司教になっても一生助祭なんです。このへりくだる心、貧しい生き方を決して忘れないで下さい。キリストご自身がそうであったように、私たちは自分の貧しさを通してしか、人の救いのために役立つ者にはなれないのです。このことを決して忘れないで下さい。

今日、助祭叙階を受けられる皆さん、皆さんが助祭として、また司祭として（そして信徒として）歩むことになる時代は非常に厳しい時代です。なんとなく教会があつて、なんとなく信徒が集まつて、なんとなくカトリック学校があつて、なんとなく子どもたちがいて、なんとなく人が洗礼を受けて、なんとなく司祭として生きていける、と言うような時代ではありません。私たちすべての人間を神から引き離そうとする力がものすごく大きく働いている時代です。そう言う社会なんです。その中で宣教者（ミSSIONナリー）である意識を持ち続けてください。キリストに派遣されて日々を生きていることを忘れないで下さい。そのためにどうか、いつもイエス・キリストをしっかりと見つめてください。聖書を通して、祈りを通して、さらに貧しい人との出会いを通して、そのキリストが今も共にいて下さることを感じていて下さい。そして今も私を通して神様がご自分のわざをなさろうとしておられることを感じていて下さい。それが、私たちのあらゆるMISSIONと奉仕の力の源なのです。